

# 社会福祉援助技術論Ⅰ（ケースワーク）

~20◆

科目コード●CJ3126

担当教員●山川敏久



2 単位

R

2 年以上

※この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度に入学した方は履修することはできません。

## 科目の内容

人間一人一人の性格が異なるように、福祉の援助を必要とし、サービスを利用しようとする人々の暮らしも当然のことながら個別的であり、多様な生活課題を抱えています。

「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」では、そのような多様な生活課題をかかえている人に対して、相談支援活動を中心に、課題を解決し、自立を促進するための社会福祉援助（ソーシャルワーク）の技術を学びます。

「社会福祉援助技術論Ⅰ」では、まず社会福祉援助活動の基本的枠組み（教科書1）p.25～29の「4つの総体」やp.29～32の「10のP＝基本的構成要素」を理解しておく必要があります。また、専門職として援助活動を遂行する際の倫理、原則（人権尊重・権利擁護・自立支援など）を教科書1）p.36～41にあげられた事例などを通して理解していただくことが必要です。さらに、社会福祉援助技術は、大別すると「直接援助技術」と「間接援助技術」、その他の関連援助技術に分けられます（教科書1）p.140～157）が、そのような体系を学んだ上で、社会福祉援助技術の共通課題である契約・介入・面接・記録・評価、スーパービジョンなどの意義と方法についても知っておく必要があります。これらの内容については、「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の学習を通じて、深く身につけていただくことが必要です。

それらの理解を前提に「社会福祉援助技術論Ⅰ」では、直接援助技術のなかの「個別援助技術（ケースワーク）」を学んでいただきます。

ケースワーク（個別援助技術）は、社会福祉援助（ソーシャルワーク）技術各論のなかでも、特に援助を必要としている人を価値ある固有の存在としてとらえ、定義し体系化されてきました（教科書1）p.149～150、教科書2）p.40～43）。

本科目では、ケースワーク発展の歴史を通して、個別援助技術が生活上のニーズや全体性にどのようにかかわっているのか考察し、援助の具体的な展開過程（教科書2）p.40～66）を学習します。同時にかけがえのない個人としての人間にかかわる上で必要なケース

ワークの基本原理や価値、自覚しなければならない基本的態度（教科書1）p.192）など方法と技術について学びます。

## 到達目標

- 1) 社会福祉士としての専門的知識・技術について説明できる。
- 2) ソーシャルワークのアプローチについて説明できる。
- 3) 社会福祉士の業務について応用できる。

## 教科書（社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ共通）

- 1) 福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座 8 社会福祉援助技術論Ⅰ（第3版）』中央法規出版、2006年
- 2) 福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座 9 社会福祉援助技術論Ⅱ（第4版）』中央法規出版、2007年

## レポート課題

1 単位め	個別援助技術（ケースワーク）における医学モデル（診断主義）から生活モデルへの発展過程について述べよ。
2 単位め	<b>【説明型レポート】</b> 下記について各々400字以上（合計2,192以内）で簡潔に説明して下さい。 ① エンパワメントの定義と意義について ② 問題解決モデルについて ③ パイステックの7原則について ④ 個別援助技術の展開過程について ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題

## アドバイス

**1単位め解説** ケースワーク（個別援助技術）は、社会福祉の目的を達成する手段として体系化され、ソーシャルワーカーがもっとも頻繁に用いる技術です。それは産業革命後のイギリス社会からアメリカへと移り発展してきました（教科書1）p.80～84）。特に「ケースワークの母」と呼ばれるリッチモンドの伝統的なケースワーク論から今日の社会経済の発展と人間生活の拡大に伴う生活問題へのアプローチには、医学モデル（診断派）から生活モデルへの歴史的な変遷がみられます（教科書1）p.84～91、p.238～241、教科書2）p.40～43）。テキストを熟読してケースワークの診断主義と機能主義、折衷主義を通して、医学モデルから生活モデルへの発展過程をまとめてください（教科書1）p.88～p.91、p.96～130）。また、その時々理論的支柱となった人物にも触

れてください。

2単位め  
解説

各々の課題について400字以上で簡潔明瞭に書いてください。各課題について教科書を中心に整理していきます。さらに関係する他の本についても確認してください。それらをまとめながらレポートにすると良いでしょう。個別援助の展開過程を通して、コミュニケーション技術、バイスティックの7原則、様々なアプローチなどを使用します。そこには多くの専門用語がでてきます。正確に理解してください。

## 科目修了試験 評価基準

- 1) 出題された問題に対して適切に論述されているか。
- 2) 専門用語について理解されているか。
- 3) 自身の考えが示されているかなどもについても評価の対象とする。

## 参考図書

荒川義子編著『医療ソーシャルワーカーの仕事―現場からの提言』川島書店、2000年

# 社会福祉援助技術論Ⅱ (社会福祉調査法)

~20◆

科目コード●C J 3 1 2 7

担当教員●三浦 剛(左)  
石 附 敬(右)



2 単位 | R or SR | 2 年以上

※この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度以降に入学した方の「社会調査の基礎」と同じ内容の科目です。レポート課題やアドバイスは『レポート課題集 A (社福・精保指定科目編)』『社会調査の基礎』をご覧ください。